回 答 書

受付番号	回収年月日	回収場所	担当主管課
第 16 号	平成26年6月6日	伊予市役所	総務部 総務企画課
題 目（テーマ）：半径300mを単位としたコミュニティづくりを（地域の消費の力で）			
提 案 内 容（要旨）			
<p>高齢者にとっては徒歩5～6分(250m～300m)が日常生活圏であると思われます。その範囲内で日常生活に必要なモノやサービスを受け取ることができれば、周辺地域であっても便利で楽しい生活が可能になります。</p> <p>かつて、どの地域にも小さな店があり、地域の人の溜り場でもありました。それがここ20～30年の間にほとんどが閉店してしまいました。車を利用してスーパーで買い物をする生活スタイルが小店の基盤を崩したこと、店主の高齢化で継続が困難になったことなどが理由です。</p> <p>しかし、超高齢社会となった今、車社会から取り残された高齢者にとっては、日常生活が不便になるとともに孤独なものにもなってきました。</p> <p>かつての小店の機能を現代的な形で復活できないのでしょうか。消費で地域を支えるという考え方があります。日常必要な物品は日常生活圏内の店舗で購入するという地域の合意ができれば可能です。スーパーなどでの買い物をやめろというような野暮な話ではありません。地域に100世帯あるとします。各世帯で毎月1万円を地域の店で購入する合意ができればいいのです。醤油や味琳など日持ちがするものを中心に商品を置き、月間100万円の売り上げがあれば、粗利25%として25万円。施設担当のパートさん(あるいは有償ボランティア)を3名程度、地域の中から採用(雇用)することが可能です。</p> <p>地域の集会以外には日常的には使用されていない集会所をリフォームして、多機能施設に生まれ変わらせることを考えてみてはどうでしょうか。</p> <p>地域の皆さんの溜り場。学校から帰った子供がそこで勉強し、施設担当者や集まった高齢者などが見守る。延長保育、学童保育の簡易的な形態も実現可能ではないでしょうか。元気な高齢者が要介護者を助けるという形の簡単な介護もあり得ます。3世代交流の場ともなるでしょう。</p> <p>地域の方々が集まり珈琲やお茶、スイーツなどでコミュニティカフェを楽しんだり、料理自慢の方が会費制、当番制で料理をふるまったりするコミュニティレストランの運営も考えられます。</p> <p>地域が抱える諸問題を地域の方々の消費によって解決する。この考え方に合意できる地域を選定してモデルケースをつくり、評価が確定すれば市内全域に広げていく。もちろん、地域の皆さんとの粘り強い合意形成への努力が必要になります。</p> <p>人口激減時代。若年女性の激減予想が衝撃を与えています。子育て支援=未来への投資が最優先課題になります。行政への過度な依存を断ち切り、地域内での支え合いで解決可能な諸課題を住民の力で解決する。それが真の住民自治ではないでしょうか。</p>			

回 答 内 容

このたびは、半径300mを単位としたコミュニティづくりを（地域の消費の力で）につきまして、誠に理にかなったご提案をいただきました。

ご高説のとおり、近年の急速な過疎化、少子高齢化の進行、また郊外大型店の進出、後継者不足などから日用品を取り扱う店舗が著しく減少していることは、誠に憂慮に堪えません。

それは、自家用車等の移動手段を持たず、身体的、経済的に対応が難しい高齢者を中心に深刻な問題になってきており、また、地域自治を進めている集落や自治会において、都市化や価値観の多様化等に伴い「地域コミュニティ」の希薄化につながり、従来の地域活動の低迷につながっているものと考えます。

そうした中、今回のご提案は、これからの集会所の活用方法の一つとして大変参考になるものと存じます。

ただ、集会所は、地元即ち地域関係者が維持管理をすることを大原則としており、その活用は、地域の皆さんの理解と協力が絶対不可欠ですし、地域コミュニティ活動の妨げにならない範囲での利用等、さまざまな制約があるものと思われれます。また、集会所のリフォームについても費用面やスペースの問題もあります。

したがって、他の自治体の取り組み事例等の情報収集に努めるとともに、各地域との連携を図りながら、地域の実態に即した対策について調査研究を進めてまいりたいと考えております。

テレビショッピングやカタログ販売、インターネット販売などの通信販売による宅配便の利用が消費活動の主流になりつつある中で、「自分たちの店」という、地域における自主運営の店舗のご提案は、興味深いものがありますものの、「月間100万円」の売り上げの管理、パート従業員の雇用など、経営能力を要する代表者や役員が必須となって参りますが、地域でその体制がとれるかどうか課題は大きいと考えます。

様々な手法を模索しながら、参画と協働のまちづくりを進めていきたいと考えておりますのでご指導いただきますよう、よろしく申し上げます。